

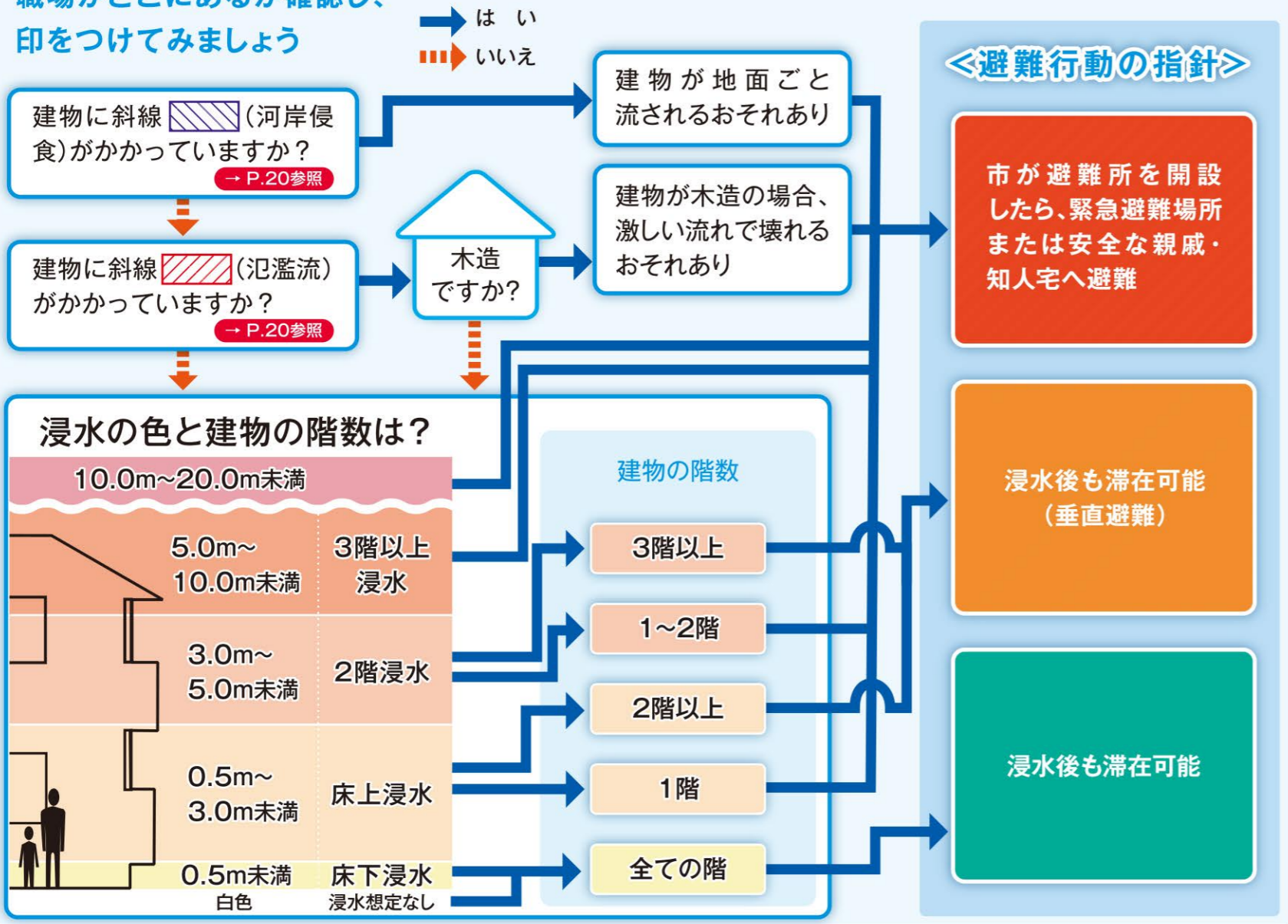
3-1 避難行動判定フローを確認しましょう

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、自宅の災害リスクととるべき行動を確認しましょう。「避難行動判定フロー」をハザードマップとあわせて確認し、居住する地域の災害リスクや住宅の条件等を考慮したうえで、とるべき行動や適切な避難先を確認してください。

避難行動判定フロー あなたがとるべき避難行動は？

ハザードマップ*で自分の家や職場がどこにあるか確認し、印をつけてみましょう

*ハザードマップは浸水が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。



*浸水後も滞在可能な地域の方も万が一に備えて避難先を考えておきましょう。

避難時の心得

浸水が始まってからの避難や、夜間の避難は大変危険です。気象情報などに注意して、動きやすい服装で早めの避難を心がけましょう。また、逃げ遅れたり、周囲の状況により避難することに危険を感じた場合は、無理に避難所まで行かず、高い所で救助を待ちましょう。

① 正確な情報の収集と早めの避難!



最新の気象情報や防災情報に注意し、早めに避難

② 動きやすい格好で避難!



手は自由に動かせるようにし、運動靴で避難(長靴は厳禁)

③ 浸水の中の避難は危険!



やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認しながら移動

④ 逃げ遅れた時は!

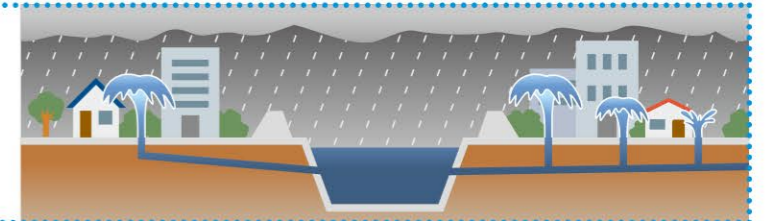


周囲がすでに浸水しているなど、安全に避難できない場合は、自宅の2階等高い場所へ避難

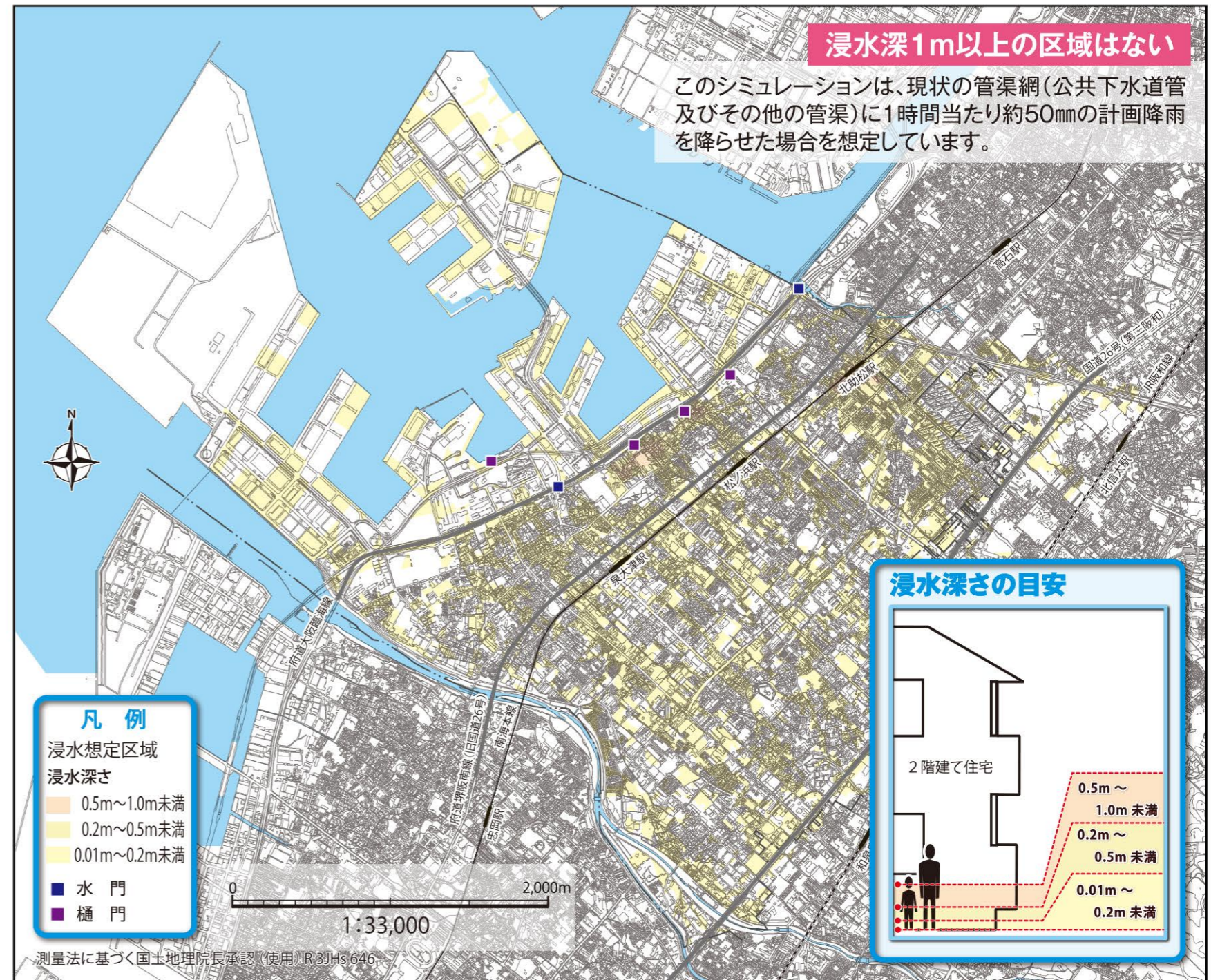
3-2 内水はん濫シミュレーションマップ

内水はん濫とは

一時的に大雨が降ると、側溝や下水道管、排水路で雨水を流しきれなくなることがあります。また、河川の水位が上昇すると、河川から逆流することもあります。このように市街地での水はげが悪化し、建物や土地、道路が浸水することを「内水はん濫」といいます。



このマップは、大雨により下水道では処理できず浸水する可能性がある範囲と深さを示したものです。下水道の雨水排水能力を超える大雨が降ると、内水はん濫が発生する可能性があります。大雨が降っている時は、気象情報に注意し、地下空間やアンダーパスなどには近づかないように、特に注意しましょう。



測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R.30Hs.646

局地的大雨(ゲリラ豪雨)に注意しましょう

局地的大雨は、短時間のうちに狭い地域で集中的に降る雨のことです。突発的に降るため、その予測は困難です。気象情報や起きている現象から危険性を判断し、早めの行動を心がけましょう。

短時間で危険な水位



河川、下水管、用水路などは、激しい雨が降ることや、まわりから雨が流れ込むことで、数分から数十分で危険な状態となります。

注意報や警報が出ない雨でも災害が発生する



大雨や洪水の警報・注意報の発表基準に達していないわずかな雨でも、災害が発生するおそれがあります。

離れた場所の雨でも影響する



自分のいる場所で強い雨が降ってなくても、上流で降った雨が流れてきて、危険な状態になる場合があります。